



資料名	足袋の季節	
内容項目	D-22 よりよく生きる喜び	
出典	あすを生きる2（日本文教出版）	
資料分析	<p>本資料「足袋の季節」は、主人公「私」が、ふとしたことから、おばあさんにうそをついて釣銭をごまかしてしまう。後悔の念を長年抱えながら生きてきた。後年、謝罪におばあさんの元を訪ねるが、おばあさんはすでに亡くなっていた。貧困と寒さに耐えきれず、釣銭で足袋が買えると考えた「私」が、自分のおかした罪と後悔を糧に「おばあさんからもらった心」を胸に、前向きに生きていこうと、自分自身と向き合っていく内容である。</p> <p>人間が持っている心の弱さや醜さを自覚しながらも、強く気高く生き、人間として生きる喜びを見出そうとする態度を育てることのできる資料である。</p>	
主な発問とそのねらい	<p>1 資料「足袋の季節」を読む。</p> <p>(1) 教師の範読を聞く。</p> <p>【補助発問】 「私」は、日々、どんな暮らしをしていたのだろうか。</p> <p>(2) 当時の生活状況を疑似体験する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">めあて 「私」の生き方から学ぼう。</div> <p>2 人間のもつ弱さや醜さに気付く。</p> <p>【発問1】</p> <p>思わず「うん」とうなずいてしまった「私」の気持ちはどんな気持ちだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やった。このお金でやっと足袋が買える。 ・おばあさんに申し訳ない。・悪いことをしたな。でももう謝れない。 <p>【発問2】</p> <p>おばあさんの死を知って、ただむしように自分に腹が立ち、流れていく果物かごを見ながら、泣けて泣けてどうしようもなかったときの「私」の気持ちは、どんな気持ちだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もうおばあさんに謝ることも感謝の気持ちを伝えることができない。 ・自分は、なんてひどいことをしたのだろうか。 ・もっと早く謝りにいけばよかった。 ・おばあさんから許しを請うことができない。自分は最低な人間のままだ。 ・謝れば許されると考えていた自分の心は弱いし甘い。 <p>【補助発問1】 「私」は何を後悔したのだろうか。</p> <p>3 心の弱さや醜さを自覚しながらも、強く生きていくことの素晴らしさについて考える。</p> <p>【発問3】【中心発問】</p> <p>「おばあさんがくれた心を、今度は私が誰かに差し上げなければならない」と言った私。おばあさんがくれた心とはどのようなものだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つらくても正直に生きる大切さ。 ・自分がきつくても、誰かのことを考えることができる優しさ。 ・ずるい生き方をせずに、誠実に精一杯生きる大切さ。 ・誰かつらい思いをしている人がいたら、気付き、その人の支えになれる人になってほしい。 <p>【補助発問2】 あなたがその立場だったら、その心を他の人に差し上げられるだろうか。</p> <p>4 自分自身を見つめ直す。</p> <p>【発問4】</p> <p>「私」の生き方から、今までの自分を振り返り、これからの自分の生き方について考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分に甘かったり、心の弱さに負けてごまかして生きたりしてしまう心の弱さがあるが、まちがいに気付いたとき、そのまちがいや後悔を二度とくり返さないように前向きに、強く生きていくような生き方をしたい。 ・ほかの人に返すことが、おばあさんに対する償いになるように、たとえ、心の弱さに負けて、後悔するようなことに遭遇しても、負けずに前向きに生きていきたい。 	<p>○当時の貧困や極寒の状況を感じることができるように、【補助発問1】を行い、その生活状況を疑似体験させる。</p> <p>○人間の心の弱さや醜さは誰にでもあることを自覚できるように、【発問1】を行う。</p> <p>○おばあさんの死によって、自分の失敗は許されないものだと自覚し、深い後悔の念に共感できるように、【発問2】を行う。</p> <p>○深い後悔の念をより感じることができるよう、補助発問1を行う。</p> <p>○おばあさんがくれた心を他の誰かに差し上げようとする「私」の心に深く共感させ、道徳的価値を深めることができるように、【中心発問】を行う。</p> <p>○高まった道徳的価値を自分事としてとらえることができるように、【補助発問2】を行う。</p> <p>○高まった道徳的価値から、自分を見つめ直すことができるように、今までの自分を振り返り、これからの自分の生き方について考えさせる。</p>

資料名	足袋の季節	
内容項目	D-22 よりよく生きる喜び	
出典	あすを生きる2	
資料分析	<p>本資料「足袋の季節」は、主人公「私」が、ふとしたことから、おばあさんにうそをついて釣銭をごまかしてしまう。後悔の念を長年抱えながら生きてきた。後年、謝罪におばあさんの元を訪ねるが、おばあさんはすでに亡くなっていた。貧困と寒さに耐えきれず、釣銭で足袋が買えると考えた「私」が、自分のおこした罪と後悔を糧に「おばあさんからもらった心」を人生に胸に前向きに生きていこうと、自分自身と向き合っていく内容である。</p> <p>人間が持っている心の弱さや醜さを自覚しながらも、強く気高く生き、人間として生きる喜びを見出そうとする態度を育てることのできる資料である。</p>	
主な発問とその他	<p>0 学習プリントを配布する。</p> <p>1 資料「足袋の季節」を読む。</p> <p>(1) 範読する。</p> <p>(2) 当時の生活状況を疑似体験させる。</p> <p>【補助発問】 雪の積もった地面を、手袋もマフラーもなく、裸足で1日過ごすことを想像してみよう。</p> <p>【補助発問】 「私」は、日々、どんな暮らしをしていたのだろうか。体験してみよう。</p> <p>(3) 当時のお金の価値を知らせる。</p> <p>○ 表を貼る。</p> <p>そんな状況の中で生きている「私」の姿から今日は学習していこうと思います。</p> <p>○ めあてを提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">めあて 「私」の生き方から学ぼう。</div>	
	<p>2 人間のもつ弱さや醜さに気付させる。</p> <p>【発問1】 思わず「うん」とうなずいてしまった「私」の気持ちはどんな気持ちだろうか。</p> <p>○ 挿絵を貼る。</p> <div style="text-align: center; margin: 20px 0;">  <p>誰しものがもつ心の弱さ・醜さ</p> </div> <p>【発問2】 おばあさんの死を知って、ただむしように自分に腹が立ち、流れていく果物かごを見ながら、泣けて泣けてどうしようもなかったときの「私」の気持ちは、どんな気持ちだろうか。</p> <p>【補助発問1】 「私」は何を後悔したのだろうか。</p> <div style="text-align: center; margin: 20px 0;">  <p>後悔の念</p> </div>	

3 心の弱さや醜さを自覚しながらも、強く生きていくことの素晴らしさについて考える。

【発問3】【中心発問】

「おばあさんがくれた心を、今度は私が誰かに差し上げなければならない」と言った私。おばあさんがくれた心とはどのようなものだろうか。

人間の強さ・
よりよい生き方

<優しい・思いやり程度の生徒の答えのとき>

《切り返しの発問》

確かにこのおばあさんは「優しい心」の持ち主。

でも、それだけかな。「ちらっと」見た。おばあさんは、「私」の何を見ていたのだろうか。

S: ずるい心を見透かしていた。

T: そう。心を見透かしていたんよね。それでもなお、「踏ん張りなさい」と言って、50銭玉を渡した。なんで?

S: 心を入れ替えて生きて行ってほしい。

S: ほかにきつい思いをしている人がいたら、支えになりなさいという意味を込めた

T: きっと、間違いをおかしても同じ間違いを繰り返さず、しっかり生きていきなさい。と言っているよね。

「私」は、おばあさんの優しさからどう生きていこうと感じたのだろうか。

《切り返しの発問》

「私」は、なぜ、その心（おばあさんがくれた心）を誰かに差し上げようと思えたのか。そうやって生きてこれたのだろうか。

S: あのとのおばあさんの心が伝わっていたにもかかわらず、謝りもせず、ずっと後悔の心を引きずって生きてきたからこそ、他の人に返すことが償いになると考えたから。

S: 誤りたい。あのとのおばあさんの後悔を忘れることなく、自分の心をずっと苦しめていたからこそ、「踏ん張りなさい」という言葉に恥じずに生きていかないといけないと思った。

S: あんな自分ではない自分になりたい。もっとよい自分でありたい。よくなりたいたいと思って生きてきた。

T: 人って、弱いもんね。弱さや自分のずるさ・醜さ・・・みんな誰しも持っている。先生自身も持っている。でも、そんな弱さをもっているのも自分。ずるい自分からよりよく生きていこうとするのも人間の心の強さなのかもしれないね。

【補助発問2】 そんな自分は、自分の中にもいないだろうか。

また、あなたがその立場だったら、その心を他の人に差し上げられるだろうか。

4 自分自身を見つめ直す。

【発問4】

「私」の生き方から、今までの自分を振り返り、これからの自分の生き方について考えてみよう。

1 資料名 「足袋の季節」(出典:あすを生きる2)

2 内容項目 D- (22) よりよく生きる喜び

3 資料の分析

本資料「足袋の季節」は,主人公「私」が,ふとしたことから,おばあさんにうそをついて釣銭をごまかしてしまふ。後悔の念を長年抱えながら生きていく。後年,謝罪におばあさんの元を訪ねるが,おばあさんはすでに亡くなっていた。貧困と寒さに耐えきれず,釣銭で足袋が買えると考えてしまった「私」が,自分のおかした罪と後悔を糧に「おばあさんからもらった心」を胸に,前向きに生きていこうと自分自身と向き合っていく内容である。人間が持っている心の弱さや醜さを自覚しながらも,強く気高く生き,人間として生きる喜びを見出そうとする態度を育てることのできる資料である。

4 本時のねらい

人間が持っている心の弱さや醜さを自覚しながらも,強く前向きに生きていこうとする態度を深めることができるようにする。

5 展開構想

【教師の発問】

・資料「足袋の季節」を範読する。

【発問の意図】

【予想される子どもの反応】

【補助発問】

「私」は,日々どんな暮らしをしていたのだろうか。

- ・当時の生活状況を疑似体験させる。
- ・めあてを提示する。

資料の情景に生徒をひき込ませ,本時の学習の方向づけができるようにする。

- ・つらそう。
- ・かわいそう。寒そう。
- ・こんなに少ないお金で生活しなければならないとは信じられない。

めあて 「私」の生き方から学ぼう。

【発問1】

思わず「うん」とうなずいてしまった「私」の気持ちはどんな気持ちだろうか。

人間の心の弱さや醜さは誰にでもあることを自覚できるようにする。

- ・やった。このお金で足袋が買える。
- ・おばあさんに申し訳ない。
- ・悪いことをした。今更返しに行くことなんてできない。

【発問2】

おばあさんの死を知って,ただむしように自分に腹が立ち,流れていく果物かごを見ながら,泣けて泣けてどうしようもなかったときの「私」の気持ちは,どんな気持ちだろうか。

おばあさんの死によって,自分の失敗は許されないものだとして自覚し,深い後悔の念に共感できるようにする。

- ・もうおばあさんに謝ることも感謝の気持ちを伝えることができない。
- ・自分は,なんてひどいことをしたのだろうか。
- ・もっと早く謝りに行けばよかった。
- ・おばあさんから許しを請うことができない。自分は最低な人間のままだ。
- ・謝れば許されるだろうと考えていた自分は弱い。

【補助発問】

「私」は何を後悔したのだろうか。

【発問3】(中心発問)

「おばあさんがくれた心を,今度は私が誰かに差し上げなければならない」と言った私。おばあさんがくれた心とはどのようなものだろうか。

おばあさんがくれた心を他の誰かに差し上げようとする「私」の心に深く共感させ,道徳的価値への理解を深めることができるようにする。

- ・つらくても正直に生きる大切さ。
- ・自分がきつくても,誰かのことを考えることができる優しさ。
- ・ずるい生き方をせずに,誠実に精一杯生きる大切さ。
- ・誰かつらい思いをしている人がいたら,気づき,その人の支えになれる人になってほしい。

【補助発問】

あなたがその立場だったら,その心を他の人に差し上げられるだろうか。

【発問4】

「私」の生き方から,今までの自分を振り返り,これからの自分の生き方について考えてみましょう。

高まった道徳的価値から自分自身を見つめることができるようにする。

- ・自分に甘く,心の弱さに負けてごまかして生きてしまう心の弱さがあるが,まちがいに気付いたとき,そのまちがいや後悔を二度とくり返さないように前向きに,強く生きていくような生き方

当時の生活状況

	当時	今で言うと
月給	14円	約70,000円
おばへ	13円50銭	67,500円
1か月の生活費	50銭	2,500円

※1銭=50円程度

大福餅5つ	10銭	500円
足袋1足	40銭	2,000円

道徳「あすを生きる2」 資料 足袋の季節

1月10日(金) 1回目

2年 組() 番 名 前()

この「足袋の季節」を読んでみて、もっともすごいな(素晴らしいな)と思った人物は、「わたし」と「おばあさん」のどちらでしたか。その理由も書いて下さい。

※テストでもなんでもないので、みんなの素直な率直な感想を聞かせて下さい。

「わたし」 ・ 「おばあさん」

【理 由】 _____



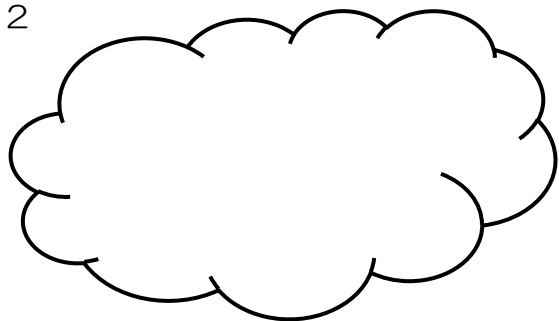
めあて

1

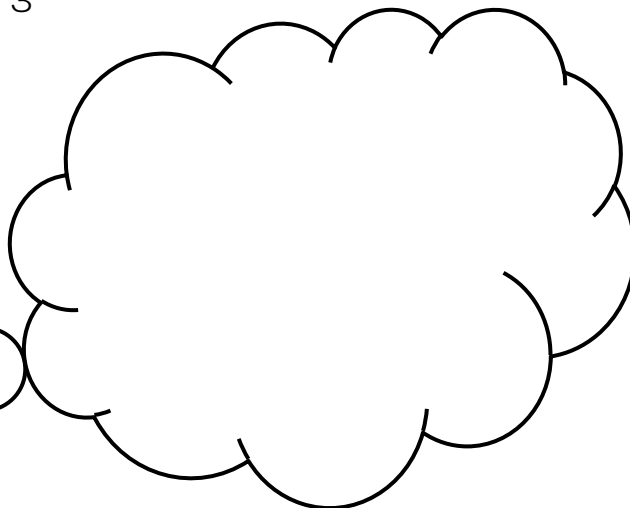
伝えない

伝える

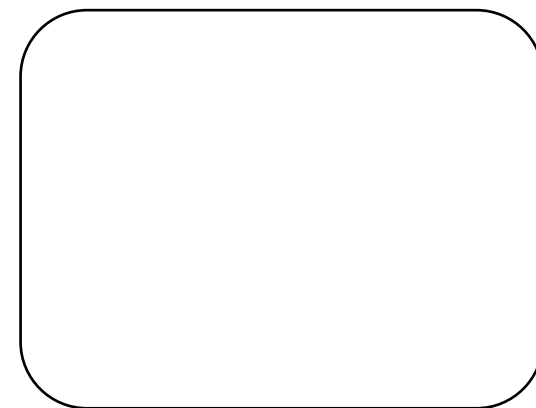
2



3



5

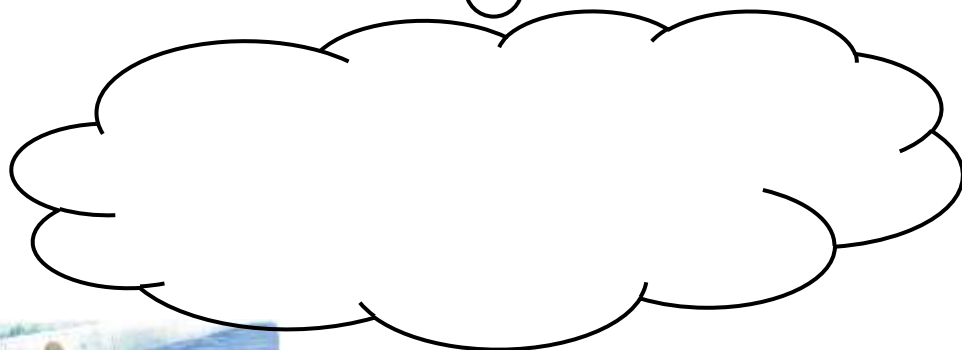


おばあさん



私

4



6

Four horizontal lines for writing.



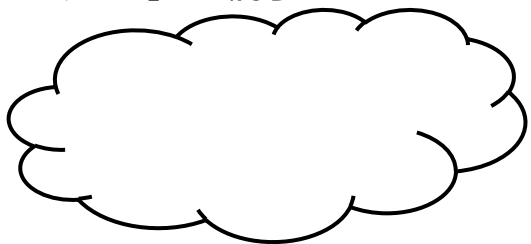


めあて

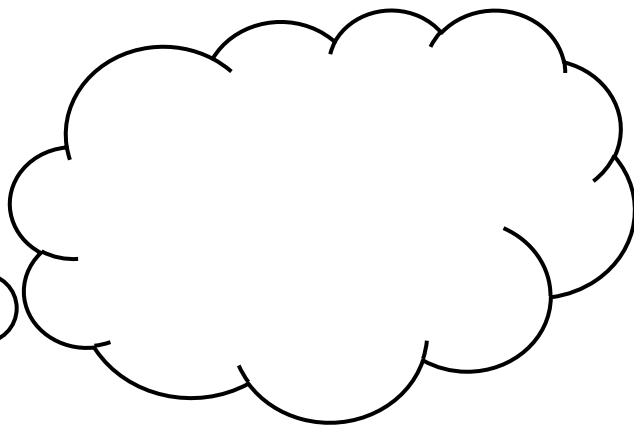
1 あなたが、「わたし」の立場だったら、四十銭のおつりを渡すおばあさんに、正直に間違いを伝えますか。

伝える 伝えない

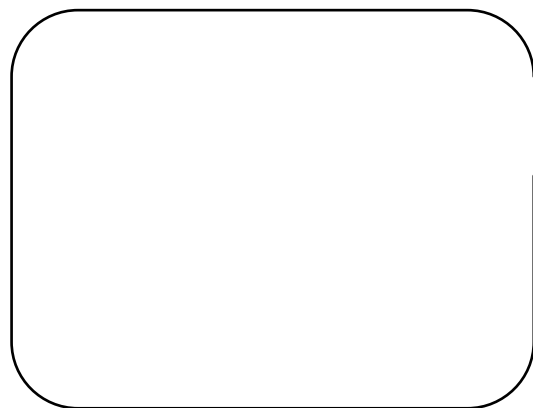
2 思わず「うん」とうなずいてしまった
「わたし」の気持ち



3 「わたし」は、なぜ、くじけずに、
ここまで生きてくることができたのだろうか

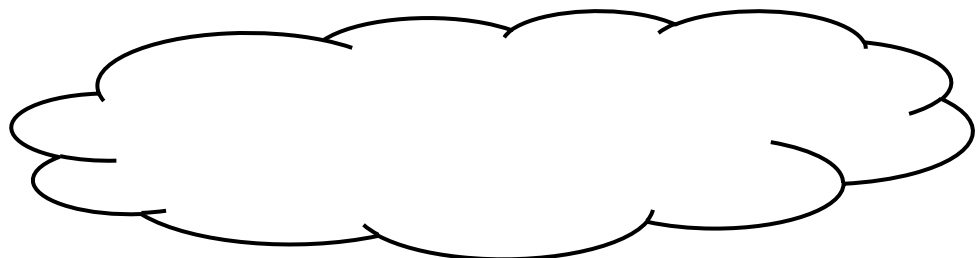


5 おばあさんが「わたし」にくれた心



4 果物かごを川に投げ捨て、
泣けて泣けてしかたがなかった
「わたし」の気持ち

私



6 今までの自分の経験を振り返ってみよう。
また、これから、あなたは、どのような生き方をしていきたいか
書いてみよう。

Four horizontal lines for writing the answer to question 6.



めあて

当時の生活状況

	当時	今で言うと
月給	14円	約70,000円
おばへ	13円50銭	67,500円
生活費	50銭	2,500円
※1銭=50円程度		
大福餅	10銭	500円
足袋	40銭	2,000円



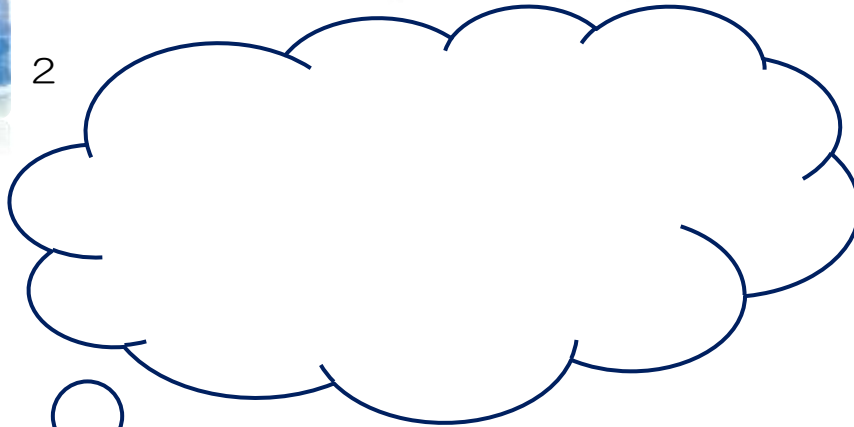
3



おばあさん

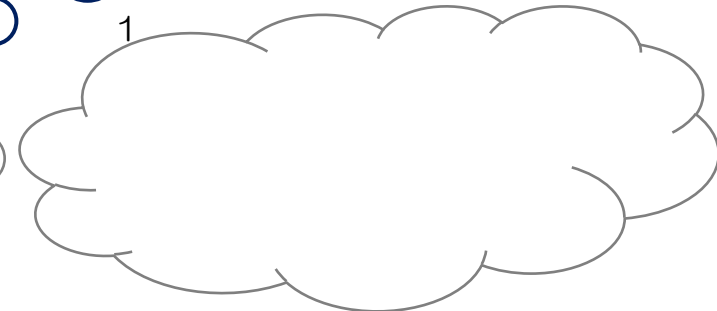


2



私

1



4



めあて 「私」の生き方から学ぼう。

当時の生活状況

	当時	今で言うと
月 給	14円	約70,000円
おばへ	13円50銭	67,500円
生活費	50銭	2,500円

※1銭=50円程度

大福餅	10銭	500円
足 袋	40銭	2,000円



おばあさん

3 「おばあさんのくれた心を、今度は自分が差し上げなければならない」と言った私。
おばあさんがくれた心とはどのようなものだろうか。

2 おばあさんの死を知って、むしように自分に腹が立ち、流れていく果物かごを見ながら、泣けて泣けてどうしようもなかったときの「私」の気持ち



私

1 思わず「うん」とうなずいてしまったときの「私」の気持ち

4 「私」の生き方から、これまでの自分を振り返り、これからの自分の生き方について考えてみよう。

